

令和4年度 学校経営計画

学校番号	6	学校名	熱海高等学校	校長名	鈴木 康之
------	---	-----	--------	-----	-------

1 目指す学校像

(1) 教育目標

「剛毅・優雅」の校訓のもと、「智・仁・勇」の三徳を柱に、「人間教育」を目指す。「智」とは、正しい知識、豊かな知性。物事を的確に判断する能力。「仁」とは、他者への思いやり。円滑な人間関係を構築できる能力。「勇」とは、実行力。正しい知識と自己の人間性を土台に、勇気を持って主体的に発言、行動できる能力。これらの能力を学校生活全般にわたって育成することを目標とする。

この三徳は「有徳の人」の理念にも呼応する。すなわち「智」は「自らの資質・能力を伸長し、個人として自立した人」、「仁」は「多様な生き方や価値観を認め、人との関わり合いを大切にする人」、「勇」は「社会の一員として、よりよい社会づくりに参画し、行動する人」である。

○スクールミッション

東伊豆・田方地域の教育力を活かして生徒を育て、生徒の活力を地域の活性化に生かすオンリーワンハイスクールとして、地元自治体や企業等と連携した探究活動や教科横断的な学習等の多彩な学習経験を通して、生徒の自己肯定感・有用感を高め、地域社会に積極的に参画し貢献する人材の育成を目指す。

(2) 目標具現化の柱

ア 生徒理解と人権意識に基づく丁寧な個別指導を基盤とし、組織的に全体指導を行うことで規範意識の向上を図るとともに、保護者と連携して基本的な生活習慣を確立する。

イ 生徒の能力や適性をきちんと把握し、個に応じた教育を実践するとともに、教員個々が授業力の向上に努めて魅力ある授業を行い、生徒の学習意欲の喚起や家庭学習の習慣化につなげることにより、主体的な学習態度を確立する。

ウ 3年間を見通した体系的・系統的なキャリア教育により、生徒が生き方や仕事に対する価値観について考え、高い目標を掲げて努力し希望する進路を実現できる力を育む。

エ 部活動や特別活動の充実を努めることにより、達成感や自己肯定感を高め、意欲を持って学校生活を送る生徒を育成する。

オ 教育活動の様々な場面を活用して人間関係づくりを重視した取組を実践するとともに、道徳的価値の自覚を高める指導を通じ、生徒の自他を認め多様性を尊重する態度を育成する。

カ 読書環境の整備に努め、読書習慣を身に付けさせることにより、豊かな人間力を育成し、生涯にわたる学びの基盤を築く。

キ 生徒の健康管理に対する意識を向上させるとともに、教育相談や特別支援教育を充実させ、生徒の成長・発達を支える相談体制等の充実及び支援機関等との連携に努める。

ク 生徒が安心・安全な学校生活を送れるよう、自ら危険を予測し回避する力を養うとともに、地域を構成する一員としての自覚を高め、奉仕の精神を育成する。

ケ 学校の教育活動の様子を積極的に情報発信し、地域の教育力を生かして生徒を育て、生徒の活力を地域の活性化に生かすといった、地域と密接に連携した学校づくりを推進する。

コ 観光が基幹産業であるこの地域の特性を踏まえ、国際感覚を身につけた地域に貢献できる人材を育成する。

サ 生徒が教育活動に専念できるよう、学校施設の安全安心を確保し「学びの場」に相応しい教育環

境を整備する。

シ 学校の組織力を高め、学校全体として教育に当たる体制を構築するとともに、教職員の業務の適正化・効率化を図り、教職員自らが豊かな教職人生を送ることができる態勢を築くことにより、生徒に対して効果的な教育活動を行う環境を整備する。

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
	日々の生徒との関わりを大切に して、個に応じた「温かく」かつ 「丁寧」な指導を充実させ、欠 席、遅刻、早退の減少を図り、中 途退学者数の減少につなげる。	保護者との密接な連携 面接週間の実施 個別面談の充実 新入生の初期指導	1日の欠席9 人・遅刻2人・早 退0.5人未満	教務
ア	教職員間で生徒指導に対する基 準の意思統一を図り、ぶれるこ とのない一貫した指導を行い、 規範意識を身につけさせる。	チケット制 服装・頭髪指導 新入生の初期指導	昇降口・伊豆多 賀駅にて声掛け 指導を毎日実施 チケット年間枚 数250以下 生徒指導件数 年15件以下（い じめ指導0件）	生徒
イ	知的好奇心を喚起するような魅 力ある授業を実践し、育成すべ き「資質・能力の三つの柱」の向 上を図る。丁寧で分かりやすい 授業、家庭学習の習慣化を推進 し、基礎学力を定着させる。	学習者（生徒）のことを考え た授業改善 ICT機器（オンラインに も対応）の効果的な活用 課外授業、実験など多様な 授業方法の探究 観点別評価に基づいた教科 指導体制の確立	教員の公開授業 参加率100% 公開研究授業 年2回実施 授業評価「授業 が分かる生徒」 75%以上 「研修通信」月 1回以上発行 生徒の家庭学習 時間30分以上 60%	教務
ウ	進路シラバスに従い、計画的に 生徒のキャリア形成のための進 路指導を実施する中で、その成 果を検証し、よりよいものに改 善していく。 地元企業や大学、専門学校等と の連携により進路行事を充実さ せ、進学先、就職先の開拓につ なげる。	「キャリア通信」の発行 地域人材の活用 小集団での進路行事 保育・介護体験実習（1 年） インターンシップ（2年） 類型の特色を活かした類型 実習（2、3年）	通信の発行 月1回以上 保育・介護体験 実習及び類型実 習の参加率 100%、インター ンシップ・オー プンキャンパス の参加率100%	キャリア

	将来の可能性を広げるために、意欲を喚起し、より高い進路希望を掲げて地道に努力する生徒を育て、その実現に向けての実力を養成する。	朝や放課後の個別指導 早期からの小論文・作文指導 早期からの面接指導 模擬試験の活用	第一志望進路先への合格・内定 85%	
エ	生徒が主体的に取り組む場面を意図的に創出し、達成感、自己肯定感を育む。 部活動や生徒会活動へ意欲を持って参加する生徒の割合を増やし、学校の活性化につなげる。	生徒会活動の活性化 学校行事の活性化	学校行事に対する生徒満足度 80%以上	生徒
		部活動の充実	2、3年生の部活動加入率70% 部活動満足度 80%以上	
オ	HR、学年集会、全体集会など、教育活動の様々な場面で、道徳的価値を高める指導をし、集団生活において自他を尊重する態度を養う。	全校集会・学年集会にて人格形成を図る講話の実施	各学期1回以上実施	生徒 教育相談 学年
		ソーシャルスキルトレーニング(SST) HR指導 学年指導 全体指導	SST実施回数 1年毎週1回 2、3年毎月1回 学年単位で実施 学校生活アンケートいじめ嫌がらせ項目0件	
カ	読書環境を整備し、読書習慣を定着させ、読書量の増大及び質の改善を目指す。	図書室の有効利用	授業における図書室利用数年20回以上	図書
		クラスでの読書活動の推進	朝読書平常授業日毎日実施	
キ	生徒が心身ともに安心して快適に過ごせるよう、生徒・保護者の健康管理に対する意識を向上させ、安心・安全な教育環境を整備する。 特別支援教育に対する教員の資質・能力を向上させ、生徒個々の状況や教育的ニーズに適切に対応する。	「保健だより」の発行	保健だより 月1回発行	保健 教育相談
		朝食摂取率向上の取組	朝食摂取率80%以上	
ク	生徒の危険への予測・対応力を育成するとともに、奉仕活動等を通じて地域貢献意欲を高める。	ボランティア活動 奉仕作業 通学路の美化保全	奉仕活動 年2回以上	総務
		防災教育の実施 地域防災訓練への参加 地域の伝統行事への参加	防災訓練参加率 50%以上	

ケ	<p>広報活動を充実させ、生徒・保護者・地域に対し、学校の特徴的な取り組みや成果についての理解を広め、生徒募集の増加につなげる。</p> <p>地域との連携を深め、地域に根ざした教育を実践することにより、地域から信頼される学校づくりにつなげる。</p>	<p>中学校訪問 学校通信の発行 HPの更新 オープンスクール 一日体験入学</p>	<p>中学校訪問2か月に1回 「学校新聞」 年6回発行 ホームページ 週1回更新</p>	教務
		<p>P T A活動の活性化</p>	<p>オープンスクール参加者数30人以上、一日体験入学者参加人数120人以上</p> <p>P T A役員会の参加率50%以上</p>	
コ	<p>外郭団体等と連携し、生徒が国際感覚を身につける場を提供し、積極的な交流により多様な文化への理解を深めさせる。</p>	<p>異文化交流生徒の受け入れ 海外研修の実施検討 オンラインによる海外学校との交流</p>	<p>異文化交流に係る行事等の実施 1回以上</p>	生徒 教務
サ	<p>生徒や職員が安心して過ごせる教育環境を整える。</p>	<p>施設設備の点検 危険箇所の周知及び改善</p>	<p>施設設備の巡回 点検月1回 施設設備に係る生徒事故0件</p>	事務
シ	<p>教職員の組織・業務や教育活動の見直し、時間外勤務の削減を通し、生徒に対して効果的な教育活動を行う環境を整備する。</p>	<p>役割分担の見直しと事務職員の学校運営への参画拡大 教育活動や組織の再点検 業務内容の平準化 全教職員による業務改善の宣言と評価 本校版部活動ガイドラインの遵守 声掛けや通信による意識付け</p>	<p>時間外勤務の平均45時間以内 業務改善をした教職員の割合100% 意識付けのための情報提供年間10回以上</p>	管理総務